

2016/5/25

視 点

「もったいない」。環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、ワンガリ・マタイさんが来日の際に感銘を受けた日本の言葉。その後、世界共通語「MOT TAINAI」として広められました。しかし、最近、この言葉が負の意味を込めて自分に向けられることがたびたびあります。「群馬になんかに引越してきて、もったいない」、「都会ならもったいない」、「都会ならもったいない」など、いろんな勤め先があるのに、もったいない。言った方は悪気などなく、親心からの発言かと思いますが、この言葉を聞くとき残念に思います。



甘楽町天引

もり えり こ
森 栄梨子

NPO法人自然塾寺子屋事務局長

生きる力育む場 自慢を

たかぶりで誤解が多く、選択がない不自由な社会になってきているのかもしれない。しかし、私はそのような表層的な基準の他に、都会にはないホンモノが甘楽町にはあります。

場所です。食べ物一つとっても、農家の先人の苦労・知恵・工夫の積み重ねに目を見張ります。当団体が実施する農業研修ではマニュアルは教えず、どのようにやるかを自ら感じとつてもらうようにしています。インターネットでさまざまな情報を手に入れることができますが、今までのプロセスが残っていて、それを語る人がここにはいます。

また、農村での生活も研修の大事なコンテンツです。古民家での共同生活では、核家族、一人部屋で育ってきた若者たちが仲間に遠慮しながら各自責任を持ち、小さな共同体での暮らしを体験します。

ご近所や先生役の農家さんとの関わりも貴重な学びです。都会ではあいさつもしてこなかった人が、研修の最後には、コミュニティの一員になっています。おすそ分けのおすそ分けによって、自作の野菜を最終的にギョーザに変えて帰ってきたわらしべ長者のような研修員もいました。

このような皆さんが何とも思っていない当たり前にある、生きる力が未来の子孫への希望のように感じます。歴史とともに人と人が感謝の気持ちを持ってつながっている社会。日本の未来を育む場として、自慢しないことの方がもったいないです。

ることを伝えたいです。自然の恵み、生活の知恵、ものづくりの技術、コミュニティの結…。ここは、生きるために必要なことをちゃんと感じ取れ

「もったいない」

オピニオン21

ホームページでも見られます。
アドレスは <http://www.jomo-news.co.jp/>

【略歴】京都府出身。嵯峨野高卒業後、米国留学。国際交流に携わり、ホンジュラスで青年海外協力隊員を務めた。2014年から現職。県と甘楽町の地方創生懇話会委員。